

2016-6-1
No.981 250円

思想運動

活動家集団 思想運動

発行・小川町企画 〒113-0033 東京都文京区本郷3の38の10さかえビル2階 ☎03-3818-6671 FAX03-3818-3199 (郵便振替)00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080-4700-6461
HP <http://www.shiso-undo.jp/>
購読料:年間6,000円 半年3,000円(送料共)

「謝罪」なきオバマの広島訪問 日米同盟強化の「シヨウ」に騙されるな

五月二十七日夕刻、G7伊勢志摩サミット開催を機会に被爆地広島を現職米大統領として初めて訪問したオバマを、日本政府・メディアは歓迎一色で迎えた。まるで、広島平和記念公園におけるオバマの一分間の演説によって、核兵器廃絶への第一歩が踏みだされたかのよう。またラベノミクスの失敗を糊塗するため、世界経済リスクに責任転嫁しG7サミットを最大限利用した安倍政権は、戦争法を強行突破した張本人であるにもかかわらず、日米同盟を「希望の同盟」と放言し、その強化と

「和解」賛美の俗論
残り少ない大統領任期となったオバマの「謝罪」なき広島訪問をめぐって、NHKをはじめとしたメディアの異様な報道ぶりには、日本社会の病根がはつきりと示されている。
『毎日新聞』五月二十八日付朝刊一面で、論説委員長小松浩は「真の和解への道」と題する記事を書き、冒頭、「被爆地で



『二十羽の白い鳩』(一九六〇年、ペン・シャーン「ラッキードラゴン」シリーズの一枚掲げられている肖像画は久保山愛吉さん。ビキニ被ばくで国家賠償訴訟 米国による五四年三月一日の、太平洋ビキニ環礁での核実験では、広島原爆の一〇〇倍とされる水爆「フラボア」が使われ、第五福竜丸の乗組員三人が被ばくし、半年後に久保山愛吉さんが死亡した。環礁の周辺では多くの日本漁船が操業していたが、五五年一月、日米両政

ができたという「原爆神話」が、いまだに広く信じられている。
第二次世界大戦末期、熾烈な独ソ戦を戦い抜き、破竹の勢いで東ヨーロッパ戦線を進撃したソヴィエト赤軍は、一九四五年五月、ナチス・ドイツの牙城であったベルリンを解放する。米国の大統領トルーマンは、日本を無条件降伏させるため、ヤルタ協定にもついでに連日対日参戦することがこの一撃になると期待していた。
七月十五日にはじまった爆撃の爪痕生々しいベルリン郊外のボツタムでの会談にトルーマンが参加した主な目的は、スターリンに対し参戦を確約させることにあった。ところが、その最中に水面下で進行していた米国の初の原爆実験成功の報をつける。もはやソ連の参戦は不要になった。戦後のソ連の、日本をふくんだアジア諸国への影響力を削ぐため、トルーマンは、日本が降伏条件(国体の維持)を模索していた情報を把握しつつも、原爆を投下した。ダグラス・マッカーサーやアイゼンハワー元帥すらも「日本はすでに敗北しており、軍事的にはまったく不必要」と考えていたにもかかわらず……。この形容しがたい大量無差別破壊兵器を広島、そして長崎に投下した米国の政府の責任は免れない。
「あの閃光が忘れえぬよか瞬間に街頭の三方は消え、押しつぶされた暗闇の底で五万の悲鳴を絶え(略) (峠三吉『原爆詩集』)」
いっぽう沖繩を捨て石とし「本土決戦」を呼号していた天皇制軍部支配体制が、国体維持のために無謀な戦争終結を遅らせ、東京大空襲・沖縄戦・原爆投下の犠牲拡大をもたらした責任も同様には免れない。
わたしたちは、そうした戦前の日本軍国主義による侵略戦争にたいする戦争責任追及と、それを果たしていない戦後責任を、常に自覚することから出発する以外にはない。
「核なき世界」とは
七年前の二〇〇九年、オバマはブラハ演説によって核兵器廃絶のビジョンを語り、ノーベル平和賞を受賞した。オバマは以後、核兵器廃絶の演説とは裏腹に、核兵器の近代化とその運搬手段開発として今後三〇年で一兆ドルの予算を承認している。CTBT(核実験全面禁止条約)の批准もしていない(米国の核の傘にある日本政府も同様だ!)。その「未来志向」は信じ難い。
中東政策においては、反テロ戦争を名目にイラク、アフガニスタンからの撤退を膠着化させ、NATOとともにリビア・カタフィ政権の暴力的転覆、シリア、ウクライナ危機への介入と

反ロシア政策にみられるその戦争政策は、とどまることを知らない。強いて積極面をあげるるとすれば、イランの核開発制限合意があるが、それもロシアによる仲介支援があったことである。
アジアではバラバラな政策のもと、南シナ海問題における中国への挑発と牽制、中国包囲網の形成に余念がない。朝鮮敵視政策にもつき最大規模の米韓合同軍事演習を実施し、朝鮮政府からの休戦協定を平和協定に転換するようとの提案を拒否し続けている。朝鮮半島の非核化ではなく「朝鮮の非核化」を一方向的に求める姿勢は、任期内における朝鮮問題の解決を困難にしている。
沖繩における米軍の占領支配、引き続き施政権還元の沖繩の米軍基地の現状をみると、それが沖繩県民に、日米同盟強化の橋頭堡としての役割を押しつけていることがはつきりとわかる。
直近では、またしても沖繩離島納基地の元海兵隊員による残忍な女性レイプ殺害、死体遺棄事件があった。沖繩にある米軍基地の存在が、問題の根源である。そこには、米海兵隊が沖繩に着任した兵士らを対象にした研修で、沖繩の世論は「地元メディアの恣意的な報道によって色眼鏡で物事を見ている」と説明するなど、沖繩県民を見下すような「軍事植民地支配者」としての感情が横たわっている。いま、辺野古・高江の新基地建設に反対する沖繩県民の声は、海兵隊の沖繩からの撤収要求から、すべての米軍基地の撤去へつとき進んでいる。
今回の日米首脳会談において、オバマは遺憾の意を表明したが、明確な謝罪もせず「日米地位協定」見直しにも一切触れなかった。安倍は普天飛行場の移設問題は「辺野古が唯一」と伝達した。わたしたちは、日米両国政府の犠牲者と沖繩県民に

【今号の主な内容】
(特集)元米兵の沖繩 女性暴行殺害事件糾弾! (高嶋伸欣/大館まゆみ)……2~3面
(HOWS) 2016年度前期プレ企画・開講講座、盛会裡にスタート! ……4面
(国際)朝鮮「制裁」を問う(田沼久男) / 論評「オバマ広島訪問の卑劣なねらい」(ベ・クムヒ) ……5面
(反原発)びわ湖一周デモ成功(稲村守) / 福島廃炉作業の現場から一池田実さんの報告 ……5面
(紙つづて特集) ……7面 / (文化)金山明子展をみて(江夏露彦)・書評「リーマンショック以後」 ……8面

『思想運動』『社会評論』読者拡大実施中
☆『思想運動』『社会評論』を購読される方をご紹介ください。
☆同封の紙つづて用ハガキにご協力をお願いします。